

令和 7 年度 第 1 回但馬地域公共交通活性化協議会 議事要旨

日 時：令和 7 年 6 月 23 日（月） 14 時 00 分～16 時 10 分

場 所：新温泉町 多目的集会施設多目的ホール

次 第：

1. 開会
2. 但馬地域公共交通計画の一部改定案及び計画別紙の審議
3. 但馬地域公共交通計画の令和 7 年度の施策推進
 - (1)令和 6 年度 of 取組評価結果と令和 7 年度取組方針の報告
 - (2)令和 7 年度の施策推進のための主な取組
4. 協議会の運営について
5. 閉会

議事要旨

○主な意見

[但馬地域公共交通計画及び別紙の審議]

委 員：全国的にバスの減便がある中で、新城崎大橋の開通に合わせた新規路線と増便は、但馬の観光を担うルートとして期待している。

委 員：新規路線のため所要時間等も精査し、観光地での滞在時間も踏まえ今後ダイヤの調整を図っていく。

委 員：本審議について、この他意見がないため、承認されたものとする。事務局で最終調整の上、手続きを行うこと。

[令和 6 年度 of 取組評価結果と令和 7 年度取組方針]

委 員：観光系指標は順調だが、生活交通は依然として課題が多く、今後の方策が見えにくい。新たな取り組みに対する成果を具体的に把握し、結果を踏まえた議論が必要。来年度 of 中間見直しにおいては、取り組みごとの成果を評価できる具体的な指標を設定してはどうか。

事務局：計画策定時はコロナ禍ということもあり、月並みな指標になっているところはある。来年度見直しに向けて議論していきたい。

[令和 6 年度の施策推進のための主な取組]

委 員：「のんなるかー」実証実験に関する住民アンケートでは、ドライバーに関心を示す住民がいたとある。深刻なドライバー不足の中、住民の担い手意識をどう高めるかが重要である。なにか工夫した点はあるか。

事務局：「のんなるかー」は、住民主体で解決を図る動きから始まった。地域にはもともと意識の高い住民が多く、市としても今後、地域と連携しながら継続を支援していく方針である。

委員：従来は公共交通の利用者数が少ないことが課題とされたが、現在は運転手不足が深刻化しており、利用者が少なくても需給バランスが取れていれば問題ないと考える。「のんなるかー」は、利用者は少ないようであるが、現時点では供給が上回っている状況か。

事務局：「のんなるかー」の実証実験は、冬季での実施で雪の影響もあり、運行が十分にできなかったことが一因。また、住民によるマイカー活用は前向きな取組だったが、利用者にとっては心理的な壁が明らかになったことも成果の一つ。

委員：「新温泉町交通政策研究会」は、住民参画で行っているとのことであったが、これはどのような研究会か。

事務局：現在の研究会は形式的な住民参画にとどまっているが、将来を見据え、より具体的な議論が必要であり、今後は研究会の在り方自体を見直す必要がある。交通事業者等と協力しながら、利用者目線に立った公共交通の構築を進めたい。

委員：但馬地域は日本の将来的な課題を先取りする地域であり、従来の取組では不十分。養父市の「やぶくる」などの先駆的事例に学びつつ、将来を見据えて住民・事業者・行政の役割分担の在り方から見直す必要がある。市町単独で難しい場合は、県や本協議会から支援・議論を行っていただければと思う。

[その他]

委員：二種免許保有者の減少と高齢化により運転士確保が急務。今後は輸送効率化や自家用有償運送の活用を進め、市町・地域と連携し、持続可能な交通体系の構築に向けた新たな取組を検討していく。引き続きご協力をお願いしたい。

委員：但馬地域では住民協力が不可欠。全但バスについてもこれまでと異なる新たな手法に取り組むことが重要である。

委員：但馬地域では人口減少と人材不足が深刻化し、公共交通の維持が困難な状況にある。特に運転士の確保は交通だけでなく福祉や教育分野も含めた全体的な人材活用が求められる。来年度の地域公共交通計画の中間見直しに向けては、各市町単位の計画から、但馬地域一体としてこの問題を考えていくべき。今後は、他地域の成功事例等を分析し、計画の見直しを進めていきたい。

以上